

コロサイ

人への手紙

②

全身全霊で 主を知ろう

コロサイ人への手紙 1章18～29章

キ聖化

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. 比類なきキリスト 18～21節

II. 聖化の促し 22～29節

III. まとめと適用

聖化における身体性の大切さ

コロサイへの手紙とは？

■ 著者 …使徒パウロ（書記テモテ）

■ 宛先 …コロサイ教会

■ 執筆時期・場所

…獄中書簡。どこかは不明。
エペソの獄中という説も。
(ピレモンとの関連)

■ 目的 …異端的教えへの反論



グノーシスとは？

■元々ギリシャ・ローマに深く浸透していた思想 …“知識”を意味。
肉体 = 悪、精神 = 善という 善悪二元論の結果として…

- ① 肉体も含めて被造世界全体が悪 → 神の創造の業を軽視
創造主は下位の神に!!
- ② 人間の魂・精神は神と同等 → 救いの必要性を根本から否定
人の内にある罪の問題も軽視
- ③ 人間の体はいやしい被造物 → キリストの受肉を否定

前回・1章前半のポイント

■ 神であり人であるキリスト

- ① キリストは、天地を創造された神である。
- ② すべてのものは、キリストに存在を支えられている。
- ③ 人となられた神、キリストが、罪の赦しをもたらされた。



I. 比類なきキリスト

18～21節

トルコ ホル・ヴィラップ修道院

御子 教会のかしら コロサイ1:18

また、御子はそのからだである教会のかしら*
です。御子は初め*であり、死者の中から最初に
生まれた方*です。こうして、すべてのことにお
いて*第一の者となりました。


*キリストのからだは一つ → 普遍的教会

*天地創造の前から存在された神

*栄光の体でよみがえられた、復活の初穂

*“あらゆる、一つも欠けることなく”

*プロテウオー …新約聖書でここだけ



他の何者も
寄せ付けない
キリストの絶対性

御子 御子の権威 コロサイ1:19~20

なぜなら神は、ご自分の満ち満ちたものをすべて御子のうちに宿らせ*、その十字架の血によって平和*をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解*させること、すなわち、地にあるものも天にあるものも、御子によって和解*させることを良しとしてくださったからです。

*父なる神と子の権威は、完全に一体

*神との和解

■十字架がもたらした救いは、完全無欠。

➡他が入り込む余地など微塵もない



御子 和解の目的 コロサイ1:21~22

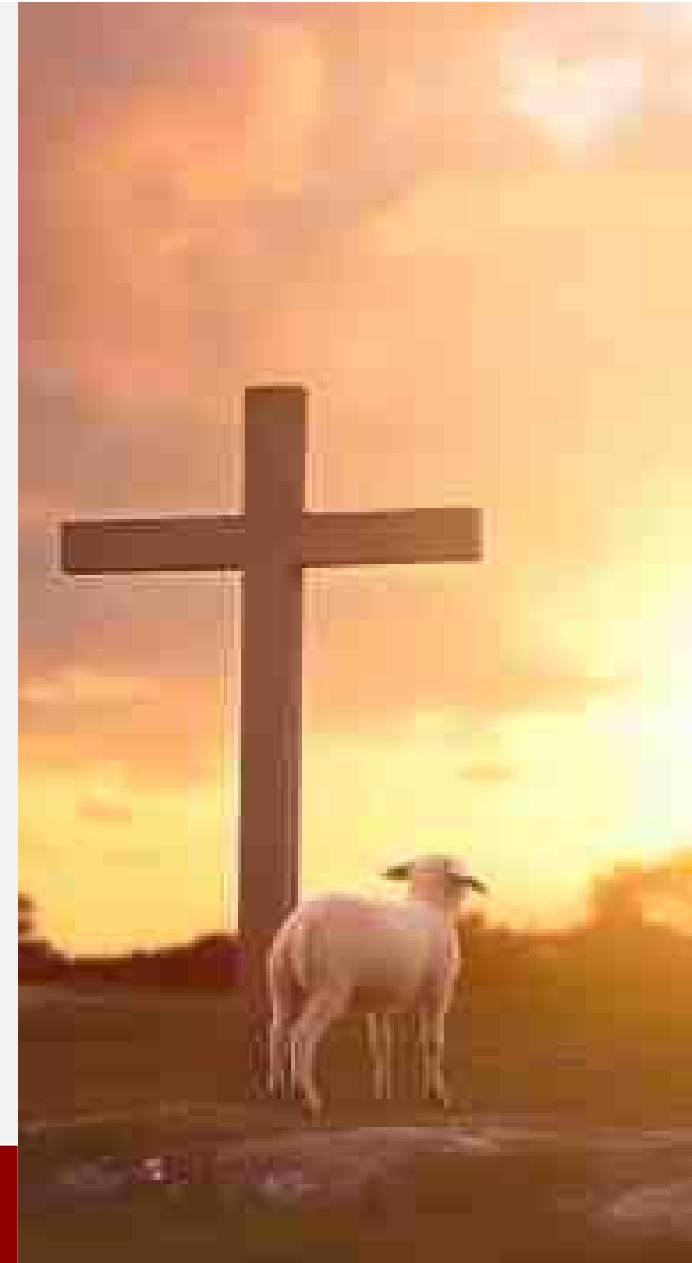
あなたがたも、かつては神から離れ、敵意を抱き、悪い行いの中にありましたが、

今は、神が御子の肉のからだにおいて、その死によって*、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。あなたがたを聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として御前に立たせる*ためです。

*人として生まれたキリスト、身体性の強調!!

*信仰者のゴール → 栄化

神との和解・義認の目的は、栄化!!





Ⅱ. 聖化の促し 22～29節

コロサイ・パムツカレ

奥義 福音による聖化の道 コロサイ1:23

ただし、あなたがたは信仰に土台を据え、堅く立ち、聞いている**福音**の望みから外れることなく、信仰にとどまらなければなりません*。この**福音**は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられており*、私パウロはそれに仕える者となりました。

*信仰にとどまり続ける。常に求められる確認。

➔現在進行形が、「聖化」の道

*今の教会時代の霊的眞実



奥義 苦難の意味 コロサイ1:24

今、私は、あなたがたのために受ける苦しみ*を喜びとしています。私は、キリストのからだ、すなわち教会のために、自分の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしている*のです。

*コロサイ教会の教理的逸脱による苦しみ

*「キリストの苦しみの残された部分の仕上げを、手伝わせていただいている。(LIB)」

他者のために受ける苦しみが、信仰者の苦難



奥義 明示された奥義 コロサイ1:25~26

私は神から委ねられた務めにしたがって、教会に仕える者となりました。あなたがたに神のことばを、すなわち、世々の昔から多くの世代にわたって隠されてきて、今は神の聖徒たちに明らかにされた**奥義***を、余すところなく伝えるためです。

*キリストそのもの

■キリストを伝えることが、
キリストに仕える者の使命。



奥義 異邦人の望み コロサイ1:27

この奥義が**異邦人***の間でどれほど栄光に富んだものであるか、神は**聖徒たち***に知らせたいと思われました。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、**栄光の望み***のことです。

*コロサイにも多くの異邦人がいたのだろう

*ユダヤ人の聖徒たち

■ただキリストの福音を信じることで、

異邦人も救われ、やがて**栄光の体に復活する***。



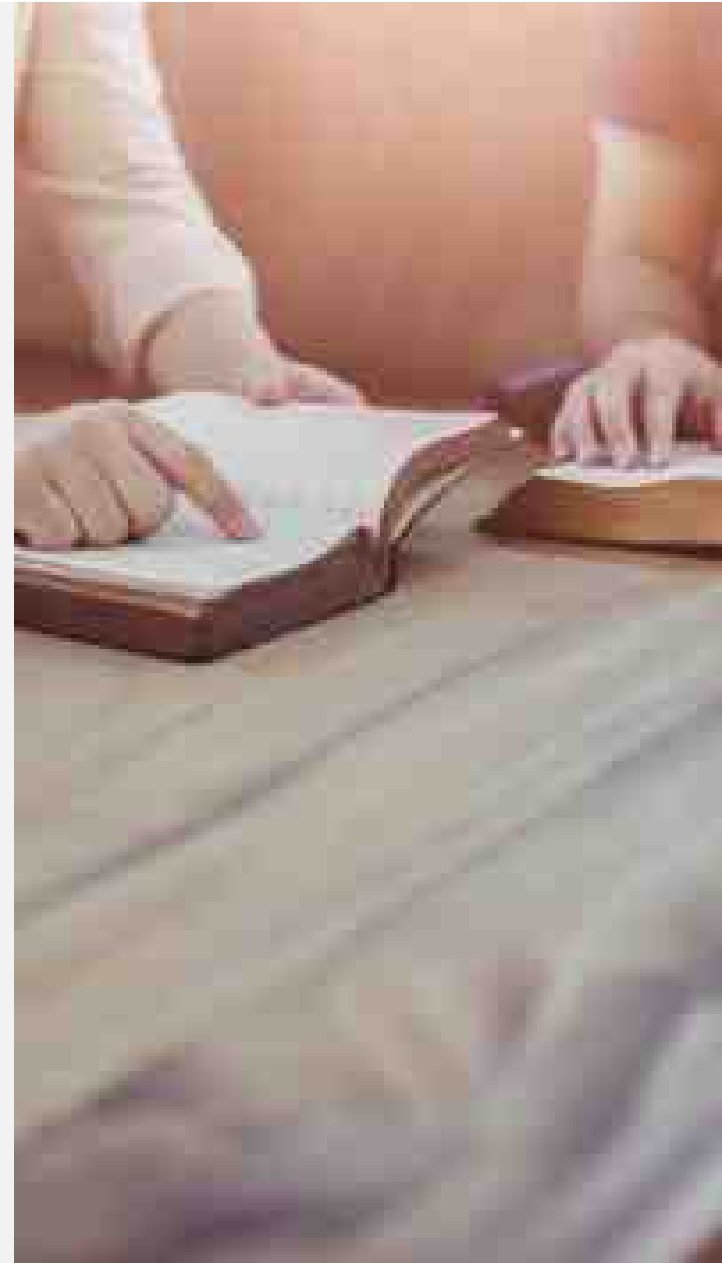
奥義 成熟した者として コロサイ1:28

私たちはこのキリストを宣べ伝え、あらゆる知恵をもって、すべての人を諭し、すべての人を教えています。すべての人を、キリストにあって成熟した者として立たせるため*です。

「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。マタイ28:19」

■ 義認・救いは、スタートに過ぎない。

➔ 御言葉に養われ、キリストの弟子として成長していくこと*が求められている。



奥義 パウロの使命 コロサイ1:29

このために*、私は自分のうちに力強く働く
キリストの力によって、労苦しながら奮闘し
ています。

*キリストの弟子を育むために

■キリストの弟子である信仰者の使命は、
キリストの弟子を育むこと

➔兄弟姉妹と共に、御言葉を学び、
分かち合い、仕え合い、諭し合う、
関係性の中に身を置くことで育まれる



キリストの力に
よって!!



Ⅲ. まとめと適用

聖化における身体性の大切さ

コロサイ・パムツカレ

救いの原則を確認しよう

- ①義認** …キリストの福音を信じて、神に義と認められる。
ただ、信仰により、恵みによって救われる。
- 信仰の起点**
- ②聖化** …キリストに似た者として、きよめられていく。
信仰によって変えられて、信仰が成長していく。
- 信仰の課程**
- ③栄化** …キリストの王国で、栄光の復活の体を与えられる。
罪も死もない。完全にきよめられ、永遠のいのちを生きる。
- 信仰の完成**

聖化の過程を確認しよう

- キリストの命令は、「すべての人を弟子としなさい(マタイ28:19)」
 - ➔ 義認は、スタートに過ぎない。求められるのは、その先の成長
- なぜ、成長が必要か？
 - ① 主の愛に応えるため ➔ 主は愛する子の成長を願われる
 - ② 信仰の完成に至るため ➔ 信仰の成長、成熟は栄化の大前提
- 御言葉により、キリストの体に連なる中で、育まれていく。

救いの永遠性と救いの確信

「あなたがたは信仰に土台を据え、堅く立ち、聞いている福音の望みから外れることなく、信仰にとどまらなければなりません。1:23」

- ただ信じて救われた、この救いは決して失われることはない。
- しかし、救いは目に見えない。目に見える救いの確証はない。本当は信じていない人も、地上の地域教会には含まれている。
- 救いは失われることはないが、救いの確信は簡単に失われる。信仰にとどまり続ける、現在進行形でのみ、信仰は確認されうる。

★ 信仰における身体性の大切さ ★

■ 言葉だけ、頭の中だけで、信仰の確信が深まることはない。

→ 偽善的信仰、言葉遊びの結果が、グノーシスの台頭
身体性が薄れる都市生活は一つの罠に!! (コリントが典型)

■ 信者に与えられる苦しみは、信仰の身体性を思い起こさせる。

→ キリストの十字架の苦しみを、実体験として味わわされる

■ 日々、御言葉に堅く立ち、学びを重ねて行くと共に、

労働し、生活し、顔と顔を合わせて、兄弟姉妹と交わろう。

霊肉をもってキリストの体を実感し、全身全霊で主を知ろう

「^{てん}天の^{とう}お父さま。わたしは、あなたに^{そむ}背き、^{つみ}罪を^{かさ}重ねてきました。
^{ひび}日々^{おか}犯してしまう^{つみ}罪をも^{こくはく}告白します。この^{つみ}罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ}神の^こみ子イエス・キリストが、
^{つみ}あがな^{じゅうじか}し

①わたしの^{つみ}罪を^{あがな}贖うために^{じゅうじか}十字架で^し死に、

^{はか}ほうむ

②^{みつかめ}墓に^{ふっかつ}葬られ、

^{しん}

③^{しん}三日目に^{しん}復活した^{しん}こと、を^{しん}信じます。

^{わたし}私の^{しんこう}信仰の^{せいちょう}成長を、^{しゅ}主が^{ねが}願い^{もと}求めてくださっています。

^{わたし}私の^{しんこう}信仰の^{せいちょう}成長を、^{しゅ}主が^{ねが}願い^{もと}求めてくださっています。

^{みことば}御言葉に^{かた}堅く^た立つ、^{しんこう}信仰によって^{わたし}私を^{はぐく}育ててください。

^{ひび}日々、^{すく}救いの^{かくしん}確信を^{ふか}深めつつ、^{たが}互いに、^{つか}仕え^あ合い、^{とき}時に^{さと}諭し^あ合い、

^{からだ}キリストの^{いちぶ}体の一部として、^{かんせい}完成に向かつて^む歩ませ^{あゆ}てください。

^{しゅ}主イエス・キリストの^なみ名によって^{いの}祈ります。　アーメン」